



アリはどうして行列ぎょうれつを作るのつく

アリはにおいのこを残す

アリの仲間なかまはえさを見つけると、とくべつの「におい」を、てんてんと地面じめんに残のこして巣すに帰かえります。えさと巣すの間あいだには、においの道みちができます。このにおいは、じょう発してだんだんうすくなり、数分すうぶんですっかりなくなります。けれど、すぐほかのアリが、この道みちをたどってえさにありつけば、また、新あたしいにおいのこを残のこします。こうして、えさがなくなるまで、たくさんのアリがこの道みちを使うため、においの道みちは、強つよさをまします。

行列ぎょうれつができているときは、えさがたくさんあるしょうこです。えさが少なくなるにつれて、やってくるアリは、1ひきへり、2ひきへり、そして利用りようされなくなり、においの道みちは消きえてしまいます。この目印めじるしのにおいは、アリの種類しゅるいごとにちがいますので、ほかの種類しゅるいが、まぎれこむことはありません。

ミツバチは「ダンス」が合あ図ず

ミツバチは、みつを見つけると、巣すにもどったときダンスをおどって、みつのある場所ばしょを仲間なかまに知らせます。そのダンスで、みつのある方角ほうかくと、巣すからの道みちのりを教おしえているのです。教おしえられた場所ばしょで、みつを集めて巣すに帰かえってきたミツバチが、次々と同じ方向つぎつぎ おな ほうこうを示すダンスをおどります。みつがたくさんあれば、たくさんのミツバチが、えさのある所ところへ集あつまることとなります。（監修・中山 周平）

